

JA全農WEEKLY

8面

青森で第11回全農日本ミックスダブルスカーリング選手権大会 選手にイチゴなど贈呈、来場者にも振る舞う

2面

浦和に初のとんかつ業態店舗オープン



初のとんかつ業態店舗としてオープンした「とんかつ豚肉お料理 純 アトレ浦和店」(2面)



書店祭の店頭で「お米のミルク プレーン」と「米糀の甘酒」を勧める県本部職員(4面)



©日刊スポーツ

山崎周二専務が第11回全農日本ミックスダブルスカーリング選手権大会で入賞したチームに副賞を贈呈(8面)

- 2 ニュース&トピックス(JA全農ミートフーズ(株)、新潟県本部)
- 3 ニュース&トピックス(米穀部、生産資材部)
- 4 ニュース&トピックス(総合企画部、耕種総合対策部)
- 5 JAズームイン(JAやさと)
- 6 特集：事業承継でパネル討議(耕種総合対策部)
- 7 特集：4月1日付機構改革(総合企画部)
- 8 コミュニケーション(広報部、JAタウン)



ZEN-NOH TOHOKU-WAGYU

東北和牛

このロゴの詳細は
紙面のどこかに…

全農



News!



「とんかつ 豚肉お料理 純 アトレ浦和店」オープン

さい
「彩の国黒豚」など使用の初のとんかつ業態店舗

JA全農ミートフーズ(株)

初のとんかつ業態店舗「とんかつ
豚肉お料理 純 アトレ浦和店」



とんかつ御膳



皆さまに喜ば
れ、愛される
お店を目指し
ていきます。

埼玉のブランド豚「彩の
国黒豚」や国産豚を使用し、
とんかつ、しゃぶしゃぶ、蒸
ししゃぶと三つの食べ方で、
そのおいしさを消費者の皆
さまへ広くお伝えする役割
を担う店舗としてオープン
しました。

「安全・安心な国産食肉を
お手頃な価格で」をコンセプ
トに、地元
の皆さまに喜ば
れ、愛される
お店を目指し
ていきます。

JA全農ミートフーズ(株)は3月16日、さいたま市のJR浦
和駅直結のアトレ浦和に「とんかつ 豚肉お料理 純 アトレ浦
和店」をオープンしました。これまで焼き肉、すき焼き、豚ほ
るもん焼きの店舗を展開してきましたが、とんかつ業態は初
めとなります。

店舗名 ● とんかつ 豚肉お料理 純 アトレ浦和店
客席数 ● 39席 (テーブル席:10卓26席、カウンター席:13席)
営業時間 ● 11:00~16:00(ランチ)、16:00~23:00(ディナー)
定休日 ● 年中無休(ビル指定による)
住所 ● 埼玉県さいたま市浦和区高砂1-16-12 アトレ浦和West Area 3階
TEL ● 048-884-2929

News!



にいがたの春「フラワーウェーブ新潟2018」開催

産出額日本一の県産チューリップ切り花をPR

新潟県本部

レン・オークメイド氏による
デモンストレーション



このイベントは県や市場、
JA、生花店、花き団体など
で組織する新潟県花き振興
協議会が主催し、新潟県が
産出額日本一を誇るチュー
リップ切り花を中心に花き
の需要拡大を目指して毎年
この時期に開催しています。
今年はフラワーデザイナー
のレン・オークメイド氏を
招いてのデモンストレー
ションやミニ盆栽作り、ギャ
ザリング(寄せ植え)教室な
ど、来場者が参加して県産
花きに触れてもらう機会を

新潟県本部が参加する新潟県花き振興協議会は2月23~25
日、新潟市で「フラワーウェーブ新潟2018」を開きました。

設け、日本一の産地ならで
はのチューリップ切り花コ
ンテストやフラワーデザイ
ンコンテストなど、生産者
やデザイナーがその技術を
競い合った多くの作品を展
示しました。チューリップ
切り花コンテストでは71品
種で100点を超える出品
の中から、水澤衛さん(JA
胎内市)の「パールフラッ
グ」が農林水産大臣賞を受賞
しました。

アレンジ装飾や受賞作品
で華やかに彩られた会場を
訪れた多くの来場者に県
産チューリップのバラエ
ティーの豊富さとそのかわ
いらしさをPRし、一足先
に「にいがたの春」を感じて
もらいました。



農林水産大臣賞を受賞
した水澤さんの作品



82人が米鑑定技術の腕競う

第15回JAグループ全国農産物鑑定会開催

米穀部

全農と全国JA農産物検査協議会は3月9日、千葉市のJA共済幕張研修センターで第15回JAグループ全国農産物鑑定会を開き、各道府県の代表が一堂に会し、鑑定技術を競いました。

全農は、農産物検査技術の向上と検査員相互の交流を目的に平成15年度から全国農産物鑑定会を開催しています。

今年度は37道府県から82人の代表選手が水稲うるち玄米35点、水稲もち玄米5点を鑑定し、腕を競いました。



第15回JAグループ全国農産物鑑定会

入賞した前列左からJA日向の幸森澄人さん、JA津南町の関沢真一さん、JA南三陸の小野寺克則さん、JA香川県の松岡誠也さん、JAみどりの及川正宏さん

成績優秀者は次の通りです

○最優秀賞

小野寺克則さん(宮城県・JA南三陸)

○優秀賞

松岡 誠也さん(香川県・JA香川県)

関沢 真一さん(新潟県・JA津南町)

幸森 澄人さん(宮崎県・JA日向)

及川 正宏さん(宮城県・JAみどりの)

全国鑑定会独特の緊張感のなか、選手は普段は鑑定することのない自県産以外の全国各地の玄米の鑑定に挑戦し、日頃から研さんを積んだ鑑定技術を十分に発揮しました。

今回は満点獲得者がいなかったものの、多くの選手が高得点をたたき出し、順位は鑑定時間の早さにより決定するという熱戦となりました。

得点の多寡と鑑定時間の短かった順に最優秀賞1人と優秀賞4人を成績優秀者として表彰しました。



ういずOne研究会に導入生産者など100人参加

収穫増加、栽培機器メンテナンスなどで活発に意見交換

生産資材部

全農は3月2日、東京・大手町のJAビルで全農式ト口箱養液栽培システム「ういずOne」の研究会を開き、導入生産者やJAなど約100人が出席しました。

ういずOneは平成25年度の導入開始、この5年間で面積・導入戸数ともおおむね15倍程度に増加し、東北地方の水稲主産地を中心に合計135戸、約10畝で導入されています。

研究会では、多収に向けた栽培のポイントや効果的な防除の解説、さらに県域研究会開催で全体の収量増

を図っている優良事例の報告がありました。最後の総合討議でも収穫増加のために何をすべきか、さらに栽培機器の効果的なメンテナンスなど活発に意見交換が行われ、有意義な研究会となりました。

全農では、今後も農家の所得増大に向けて、さらにういずOneの普及拡大を促進していきたいと考えています。



多収に向けた栽培のポイントなどを解説



活発に意見交換が行われた総合討議

News!



東北6県の書店で「東北のお米でおなかいっぱい祭」

複合的にお米のPRを実施

総合企画部

書店の店頭で「お米のミルクプレーン」と「米糍の甘酒」を勧める県本部職員



全農東北プロジェクトが日本出版販売主催の地域書店での抽選プレゼント企画（通称：書店祭）に協力したのは、今回が初めてです。「東北のお米でおなかいっぱい祭」は、対象書店で所定金額購入ごとにもらえる応募券の枚数に応じて、東北6県のブランド銘柄米セットや日本酒など、米どころ

東北6県本部が力を合わせる「全農東北プロジェクト」では、1月26日～2月28日に東北エリアの77書店で実施した「東北のお米でおなかいっぱい祭」（日本出版販売（株）主催）の抽選プレゼント企画に、賞品として全農直営店舗「いちごいちえ」の「東北6県2合米セット」を提供し、イベントに協力しました。

東北の名産品が当たる企画に応募できます。

一部書店では全農ブランド飲料「お米のミルクプレーン」と「米糍^{ちやみ}の甘酒」の試飲・配布を行い、県本部職員が店頭に来たお客さまに直接お米のミルクを振る舞い、まさにお米尽くしで書店祭を盛り上げました。

こうしたイベントの他にもあり（？）、応募総数は前年比約1・5倍の3万5000口を超えました。応募者からは「東北の魅力がいっぱい詰まった、とてもいい企画」「本屋さんでお米が当たるのは面白い」「書店とJA全農のコラボが新鮮」「東北地方を盛り上げる内容で面白い」と好意的な意見を多くいただきました。

書店祭第2弾をお楽しみ！

News!



新品種“にこにこベリー”も登場

仙台市の「みのりカフェ」で宮城県産イチゴ4産地4品種紹介

耕種総合対策部

「みのりカフェ」店頭で消費者に宮城県産イチゴを紹介



JA栗つこ産「とちおとめ」、JAいしのまき産「紅ほっぺ」、JAみやぎ亘理産「にこにこベリー」、JAみやぎ仙南産「もういっこ」を販売。お客さまからは「宮城県の全域でイチゴを作っていることに驚いた」「自分の好みの品種が分かった」とい

JA全農「みのりみのるプロジェクト」は宮城県本部園芸部とともに3月3日、仙台市のJR仙台駅内の直営店「みのりカフェ」で宮城県産イチゴ4産地4品種を紹介し即売する「東北みのりみのるマルシェ」を開きました。

う声も多く、良いPRとなりました。

みのりカフェ& Grill みのるでは仙台いちご「もういっこ」使用のパフェや米粉ケーキといった限定スイーツメニューも連日好評でした。

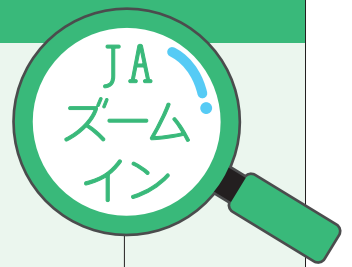
仙台店におけるマルシェ出展の希望がありましたら、本所耕種総合対策部開発企画室までご連絡ください。

宮城県のイチゴ4産地4品種を販売





JAやさととは茨城県のほぼ中央に位置し、都心から約70キロにあり田園風景と豊かな自然が魅力の農村地帯です。



JA出資型法人を設立 自ら「担い手」人材育成

やさと菜苑(株)拠点に
営農、研修受け入れ

JAやさと管内は、以前から耕作放棄地の増加と担い手の高齢化、後継者の不足などが問題でした。JAが地域のために何ができる

2年間の研修期間で力量ある生産者を育成



設立して6年目を迎える「やさと菜苑」

8人が農業者として独立
野菜に加え水稲などでも

やさと菜苑株式会社の設

か真剣に議論し、リスクはありますがJA自身が担い手となり、また新規就農者の受け皿となつて地域農業を支えていくことを決断し、平成24年8月に「農業生産法人 やさと菜苑株式会社」を設立しました。

設立当初は農地整備の遅れなどもあり、栽培可能な面積は約2畝でしたが、平成29年には約15畝の農地を保有し、露地で長ネギ(周年栽培)・キャベツ・シヨウガを栽培しています。平成28年には新たに0・6畝のハウスを建設し、葉物野菜の栽培を始めました。

JAやさと
(茨城県)



ハウスでの葉物野菜栽培

立に当り、①元気な農業担い手を育てる②地域農業の活性化(遊休農地・耕作放棄地の減少)③健康と環境を守る農業を実践④農業経営の健全化を目指すという四つの経営方針を立てました。この方針に基づき会社設立当初から、新規就農者や農家後継者を担い手として育成するために研修制度を設

概要

平成30年1月31日現在

正組合員数	3914人
准組合員数	1089人
職員数	135人
販売品取扱高	35億9千万円
購買品取扱高	29億6千万円
貯金残高	487億円
長期共済保有高	1327億8千万円
主な農産物	水稲、鶏卵、ナシ、有機野菜

けました。社員として約2年間、需要に応じた計画的な野菜づくりを行い、品質・生産性の向上を図れる力量ある生産者を育成します。これまで、やさと菜苑は15人を受け入れ、うち8人は既にJA管内で農業者として独立し就農しています。残りの7人は社員として研修中です。

今後は、より多くの新規就農者や農家後継者を育成するために、露地・ハウスだけでなく、野菜のほか水稲など多くの農産物を作付けし、作業の習得と実践を通じて人づくりに努めます。1人でもたくさんの就農希望者を受け入れ、やさと地域内の農業支援と活性化を目指していきたいと考えています。



組織の枠超え事業承継の議論を 全国青年農業者会議で講演、パネルディスカッション

全農本所TAC推進課は、3月9日に都内で開かれた全国農業青年クラブ連絡協議会が主催する「第57回全国青年農業者会議」で農業界の事業承継について講演し、取り組みの必要性を訴えました。その後、協議会役員と日本農業法人協会の山田敏之会長も加わってパネルディスカッションを行い、組織を超え白熱した議論が行われました。

全国農業青年クラブ
連絡協議会のホーム
ページはこちらから



「耕種総合対策部」

パネルディスカッション
「事業承継」
「ここから始めよう、自分たちの未来へ、次世代の未来へ」



事業承継をテーマに行ったパネルディスカッション



活発に論議するパネリスト

講演では、自らも専業農家の長男で事業承継の当事者でもある全農職員が、①事業承継の現状と必要性②事業承継ブックの説明③現在の取り組み状況について講演し、

事業承継について全国各地で議論を深め、個々の経営体での取り組みはもちろんのこと、JA青年部や4日クラブ、部会、集落などの単位で取り組みを進めていくことを提起しました。

パネルディスカッションでは、倉橋幸嗣会長（愛知）、竹本彰吾副会長（石川）、黒田事務局次長（島根）、首藤元嘉理事（愛媛）と日本農業法人協会の山田会長（京都）、全農職員がそれぞれ



事業承継の現状と必要性などを講演する全農職員

れの体験を踏まえ、事業承継をどのように進めていけば良いのかを議論しました。

パネリストからは、「親の頭の中に全てのノウハウが詰まっているが、見える化されていないことが課題」「けんかをしながら親が他界し、一人で農作業をするようになってから親と話をしっかりとってお

けば良かったと痛感している」「事業承継10年計画を立て、その計画に基づいて取り組みを進めてきたことでうまくいった」といった意見が出されました。

また、SNSを活用し会場内外からも多くのコメントが寄せられ、全国の農家と質疑応答を行いました。

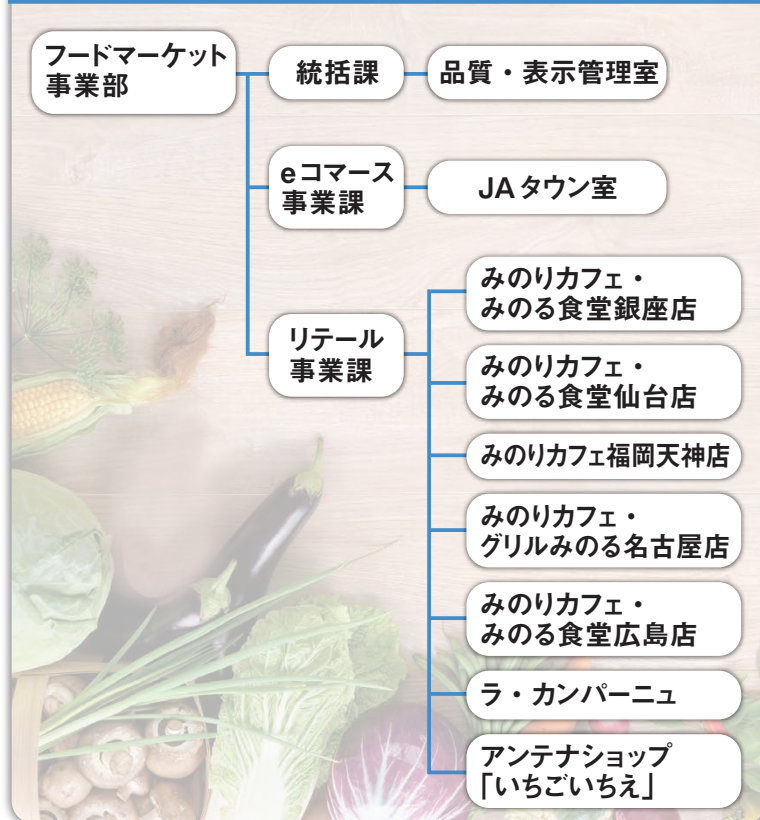
最後のまとめで山田会長から「皆さんは将来の経営者であり、自分が経営者になった時のプランを今から描いてほしい」とのメッセージをいただきました。

全農では、TACの訪問活動を通じて、事業承継ブックの活用や親子間、世代間の話し合いの場の創出などに取り組むと共に、農業者団体とも連携をしながら、事業承継を支援し続けます。

4月1日付 全農本所機構改革

「フードマーケット事業部」 「GAP推進課」を新設

新設されるフードマーケット事業部の機構図



全農本所は4月1日付で機構改革を行い、「フードマーケット事業部」を新設します。また、耕種総合対策部に「GAP推進課」を新設します。

【総合企画部】

フードマーケット事業部 リテール事業を統括

全農におけるリテール

ます。

事業の統括管理と機能強化を目的に「フードマーケット事業部」を新設し

全農が直営する飲食店舗の食品品質・表示を統括的に管理し、内部統制

を強化するとともに、国産素材でも経営収支が確立できるチェーン店舗の展開、さらに、出店基準・店舗運営・経営改善などの事業スキームを構築し、全農の飲食事業の高位標準化を図り、事業拡

大を目指します。

また、急速に伸長して

いるeコマース市場において、国内の農畜産物生産というリソースを持つJAグループの強みを生かすため、消費者の多様なニーズに訴求可能なeコマース基盤の開発や、その基盤に蓄積されたデータに基づき購買意欲を喚起する商品開発を行

い、事業拡大を目指します。

なお、生活リテール部のJAタウン室は「eコマース事業課」に、耕種総合対策部の「みのりカフェ」、「みのる食堂」など各店舗と、総合企画部のアンテナショップ「いちごいちえ」は、「リテール事業課」に、それぞれ移管となります。

GAP推進課

取得の取り組み加速

全中、農林中金、全共連、全農は昨年10月、全中内に「JAグループGAP支援チーム」を発足させ、国際水準GAPの団体認証取得の取り組みを進めています。JAグループにおける国際水準GAP認証取得においては、取り組みの加速化と機能強化を図るため、全農内に専任部署を設置し体制を強化して取り組み

全中、農林中金、全共連、全農は昨年10月、全中内に「JAグループGAP支援チーム」を発足させ、国際水準GAPの団体認証取得の取り組みを進めています。JAグループにおける国際水準GAP認証取得においては、取り組みの加速化と機能強化を図るため、全農内に専任部署を設置し体制を強化して取り組み

特にJAと国際水準GAPの認証農産物を要望する実需者を結ぶマッチング機能の強化を図るため、全農の営業開発部や米穀部、園芸部、畜産部門など各事業部門との連携を図り、GAPがJAの営農指導体制の強化につながる新しい仕組み作り（システム開発を含む）を行います。

青森で第11回全農日本ミックスダブルスカーリング選手権大会

藤澤山口チームが優勝し日本代表に

9産地のイチゴなど贈呈、来場者にも振る舞う

記者会見で出場選手に9産地のイチゴと青森県産リンゴ、愛媛県産清見を贈呈

「第11回全農日本ミックスダブルスカーリング選手権大会」が3月14日~18日、青森市のみちぎんドリームスタジアムで開催されました。

【広報部】



全農日本ミックスダブルスカーリング選手権大会場内の全農ブースで来場者にイチゴとカットリングを振る舞う

大会前日の記者会見で、大会期間中の食のサポートとして、選手に9産地9品種のイチゴと、青森県産リンゴ(サンふじ)、愛媛県産清見を選手に贈呈しました。

18日には会場内の全農ブースで、来場者にもイチゴ9品種とカットリングを振る舞いました。

大会は藤澤山口チームが優勝し、日本代表に決まりました。また、全農から副賞として、優勝チームに青森県産米「青天の霹靂」300kg、日本のイチゴ100パック、準優勝に青森県産米「青天の霹靂」150kg、第3位には青森県産米「青天の霹靂」50kgを贈りました。

全農は、4月にスウェーデンで行われる世界ミックスダブルスカーリング選手権に出場する日本代表に、「ニッポン人の活躍を『ニッポンの食』で支える。」のスローガンのもと、国産農畜産物を提供し、海外での食生活をサポートします。

全農 ZEN-NOH

JA全農
オフィシャル
アプリ

トピックス ポイント クーポン

「食と農」の情報を広く消費者へ! スマホアプリを公開中

JA全農のイベントや新商品に関する最新情報がさらに充実! 作動環境: スマートフォン iOS8以上 Android4.3以上



JAタウン ショップ紹介

うまーじーむら 馬路村農業協同組合(高知県)



JAタウンは
こちらから



ゆず飲料「ごっくん馬路村」
(180ml24本入)……3600円

高知県の山の奥のそのまた奥に、馬路村という人口900人ほどの小さな村があります。周りを1000m級の山々に囲まれ、限られた畑で細々と「ユズ」を作っています。

そんな馬路村から、たくさんのユズ製品を届けていますが、その中でも人気となっているのがこの「ごっくん馬路村」です。余計なものは入れず、ユズと蜂蜜と水だけで作られたとっても爽やかな「ゆずドリンク」です。昭和63年の発売以来、子どもから大人まで 皆さんに愛され、発売から30年を超えるロングセラー商品です。この機会にご賞味下さい。

なお、ご紹介した商品は、4/6(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛金引換のみ)。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。
商品代金のほか、沖縄県に配送の場合、送料が必要となります。

JA全農のインターネット ▶ご注文は <http://www.ja-town.com>

ショッピングモール ▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報、商品等の発送にのみ使用します。